

平成 15年 12月期 第 1 - 3四半期業績の概況 (連結)

平成15年11月12日

上場会社名 東燃ゼネラル石油株式会社

(コード番号: 5012 東証第一部)

(URL <http://www.tonengeneral.co.jp>)

問合せ先

(TEL: (03) - 5425 - 9000)

代表者 役職名 代表取締役会長兼社長 氏名 ジー・ダブリュー・ブルーシング

問合せ責任者 役職名 エクソモービル有限会社 取締役 人事・広報渉外本部長

氏名 内村 敏郎

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高又は売上高に相当する事項の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有 (無)

2. 平成15年12月期第1 - 3四半期業績の概況 (平成15年 1月 1日 ~ 平成15年 9月30日)

(1) 売上高又は売上高に相当する事項等

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-------------------|--------------------|--------------|--------------|------------------|
| | 百万円 % | 百万円 % | 百万円 % | 百万円 % |
| 15年12月期第1 - 3 四半期 | 1,581,732 (15.1) | 27,544 (-) | 31,027 (-) | 21,371 (1,542.6) |
| 14年12月期第1 - 3 四半期 | 1,373,879 (-) | 6,989 (-) | 3,366 (-) | 1,301 (-) |
| (参考) 14年12月期 | 1,928,868 | 4,840 | 8,261 | 8,474 |

| | 1株当たり当期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 |
|-------------------|------------|-----------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 15年12月期第1 - 3 四半期 | 36 11 | - |
| 14年12月期第1 - 3 四半期 | 2 12 | - |
| (参考) 14年12月期 | 13 92 | - |

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

第1~3四半期の連結売上高はガソリン、灯油等の販売数量の増加、並びに原油価格の高騰に伴う製品価格の上昇により前期比15%増の1兆5,817億円となりました。また、連結営業利益は次の要因により前年同期比、344億円増加の275億円となりました。石油製品部門では、ガソリン、灯油を中心とした販売数量の増加(4.1%)および灯油、軽油を中心とした製品マージンを改善しました。石油化学製品部門では、パラキシレンの好市況により約90億円の営業利益の増加となりました。統合情報システム導入による事業効率の向上、業務簡素化並びに人員合理化効果等により約40億円の経費削減をしました。

純利益は前年同期比201億円増加の214億円となりました。この中には35億円の営業外損益、日本ポリケム株の売却や遊休資産の売却に伴う40億円の特別損益が含まれています。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

【財政状態 (連結) の変動状況】

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり 株主資本 |
|----------------|---------|---------|--------|---------------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 15年12月期第3 四半期末 | 889,594 | 217,149 | 24.4 | 366 88 |
| 14年12月期第3 四半期末 | 884,149 | 211,008 | 23.9 | 356 21 |
| (参考) 14年12月期末 | 964,494 | 216,638 | 22.5 | 366 03 |

【連結キャッシュ・フローの状況】

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|-------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 15年12月期第1 - 3 四半期 | 18,469 | 1,699 | 21,181 | 657 |
| 14年12月期第1 - 3 四半期 | 21,528 | 1,982 | 26,343 | 1,325 |
| (参考) 14年12月期 | 25,596 | 11,742 | 39,827 | 1,670 |

平成 15年9月末の総資産については、平成14年12月末比749億円減少の8,896億円となりました。これは主として、12月末における金融機関休業による決済のずれ込み等の要因により売掛金、未払揮発油税等の残高が減少した事によるものです。また、株主資本は配当金の支払と当期純利益等が相殺し、平成14年12月末比5億円増の2,171億円となりました。

平成15年第1-3四半期のキャッシュ・フローについて、営業活動によるキャッシュ・フローが184億円、投資活動によるキャッシュ・フローが16億円、財務活動によるキャッシュ・フローが 211億円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前純利益および減価償却の資金増加要因が、未払揮発油税等の減少などの資金減少要因を上回ったことによります。未払揮発油税等の減少は、昨年12月末の決済が金融機関休業のため年初にずれ込んだのに対し、9月末には決済が行われたためです。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に遊休資産や投資有価証券の売却等による収入が、設備の改造・効率化のための設備投資による支出を上回ったためです。財務活動によるキャッシュ・フローは、主として配当金の支払によるものです。

3. 平成15年12月期の連結業績予想 (平成15年1月1日～平成15年12月31日)

平成15年12月期の業績予想は、本年8月22日に発表した内容に変更はありません。
但し、業績予想に変更がない場合でも、収益に影響を与える個々の要素は変動する可能性があります。今回、収支を見直した結果、8月の予想に比べ、石油製品のマージンは幾分低めに、石油化学部門のマージンを高めに見直しています。8月時点でゼロと見込んだ在庫評価益は、12月末時点で一定の計上を見込んでいます。また、特別損益は遊休資産の売却により、8月予想時に比べ、下方に見込んでいます。

(参考)平成15年12月期の個別業績予想 (平成15年1月1日～平成15年12月31日)

平成15年12月期の個別業績予想は、上記の連結業績予想と同様に本年8月22日に発表した内容に変更はありません。

かねてより記載している業績予想は、現時点における情報に基づき当社の経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依存した投資判断はお控え下さいますようお願いいたします。当社グループの業績は、石油・石油化学事業を中心とした経済情勢や市場動向並びに為替レートの変動等の要因により、予想とは異なる結果となる可能性がある事をお含み置き下さいますようお願い申し上げます。